

## 第2学年A組 国語科学習指導案

授業者 進藤 由貴子  
研究協力者 阿部 昇, 成田 雅樹  
教材分析協力者 山崎 義光

1 単元名 つなげて読もう ～わたしはおねえさん～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

「ふきのとう」の学習では、疑問に思った登場人物の行動をもとに学習問題を作り、解決する活動を通して、叙述を根拠に登場人物の気持ちを考える姿が見られるようになった。しかし、会話文から登場人物の気持ちを考えることはできるが、会話文や行動の叙述などの複数の叙述をつなげて気持ちを考えることや、そこから行動の理由を考えることはまだ難しい。ふきのとうがふんばっている理由を考える学習では、場面の最初に出てくる「よいしょ、よいしょ。おもたいな。」という叙述のみに着目し、「重いから雪をどけたい。」と考える子どもが少なからずいた。「どこかで」「雪の下に頭を出して」「『そとが見たいな』」など、複数の叙述に着目し、それをつなげて考えることができる子どもは多くなかった。会話文だけでなく、行動や情景描写の叙述からも登場人物の気持ちや行動の理由が分かることに気付くことができているためと考えられる。

(2) 単元について

本単元では、文章中の言葉を根拠にしながら、人物の行動の様子やその意味を考えたり、気持ちを想像したりする資質・能力を育成することを目指す。

教材文「わたしはおねえさん」は、物語の構成が捉えやすく、すみれちゃんの行動や気持ちの変化の理由が分かる叙述が場面を越えてつながっているため、物語全体から見付けた叙述をつなげて読むことに適した文章である。また、2年生のすみれちゃんが、妹のかりんちゃんとの関わりの中で少しずつお姉さんとして成長していく物語であるため、生活科等で1年生と関わり、張り切ってお世話をしている子どもたちにとって、すみれちゃんの気持ちや行動に共感したり、自分と比べたりしながら解釈を深めることができる教材だと考える。

単元を通して、物語全体に散らばる登場人物の行動の理由に関わる叙述に着目し、場面を越えて叙述と叙述をつなげて考えることを通して、人物の行動の様子や意味、気持ちを読み取ることができるようにしたいと考え、本単元を設定した。

(3) 指導について

本単元で目指す資質・能力の育成を図るために、叙述と叙述をつなげて中心人物の気持ちや行動の理由を考えるという「見方・考え方」を単元を通して働かせる。

領域や文種の違いによる学びの系統性を子ども自身が意識し、単元の学びを見通したり、既習の学びを次の学びに生かしたりすることができるように、国語科の学習ノートに「物語文ノート」「説明文ノート」「作文・言語ノート」の3冊に分けて学習を蓄積する。「物語文ノート」「説明文ノート」には、「読みのわざ」をまとめ、次の読みの視点として選択することができるようにする。

物語全体を通して捉えることができるように、物語全体を一枚に打ち直したものを一人一人に用意する。また、事前に配付し、音読する活動を設定することで学習のスタートをそろえ、叙述を根拠にして読みを深めることができるようにする。

導入では、主人公の言動に着目して子ども自身が問いを立てることができるように、前単元で身に付けた「普通ならば～しないのに(するのに)」という叙述に着目する見方を使って、物語を読んで疑問に思ったことを出し合い、解決するための学習計画を立てる活動を設定する。

展開では、クライマックスまでのすみれちゃんとかりんちゃんの気持ちや、行動とその理由について考える活動を設定する。ここで着目した叙述や捉えた行動の理由を共有し、情報と理解をそろえることで次時の「主題に関わる大きな学習問題」での深い読みにつなげていきたい。本時では、クライマックスの直後にある「ぐちゃぐちゃの絵がかわいく見えてきた」という叙述を根拠とした直接的な読み取りに対し、「なぜかわいく見えたのか。」と問い返すことで、物語全体に目を向け、叙述と叙述をつなげて、すみれちゃんの行動の理由について省察する子どもの姿を目指したいと考える。また、本単元で見付けた「見方・考え方」を「物語文ノート」の「読みのわざ」にまとめ、次の学びへとつなげることができるようにする。第8時では、物語を通してのすみれちゃんの気持ちと行動の変容を捉えることができるように、場面ごとのすみれちゃんに「○○すみれちゃん」と名前を付けたり、物語全体を一文でまとめたりする活動を取り入れる。

終末では、本単元で付けた読みの力を活用して既習の物語を読む活動を取り入れる。1年生で学習した「たぬきの糸車」を読み、最後のたぬきの行動の理由について叙述をつなげて考える一人読みの時間を設定することで、新たに身に付けた学びの価値を自覚させたいと考える。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 物語の設定や場面など、物語の大体を読み取り、展開に沿って場面の様子や登場人物の行動が変化することを理解することができる。 (C-38・39)
- (2) 叙述と叙述をつなげて中心人物の気持ちや行動の理由を読み取ることができる。 (C-6)
- (3) 登場人物と自分を比べたり、重ねたりしながら興味をもって物語を読もうとしている。 (エ)

4 単元の構想（総時数 9 時間）※選択・決定を通して、自律的に学習を進めるための支援

ぴったり音読発表会をしよう～ふきのとう～  
 ・設定や場面を捉える。 ・叙述から登場人物の気持ちを考える。

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉
○本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」 叙述と叙述をつなげて中心人物の気持ちや行動の理由を考える。	1 (1) 物語の大体を読み設定や場面を捉える。 ・ここは、「すみれちゃんとコスモス」の場面だね。	・物語の大体を捉えることができるように、場面に名前を付ける活動を設定する。	・設定や場面を捉え、物語の大体を読み取っている。〈C-38〉
	2 (2) 感想を交流する。 ・すみれちゃんは、どうしてかりんちゃんの絵を消さなかったのかな。	・子どもたちの疑問から学習問題を作ることができるように、「ふつうなら（自分なら）～しないのに。」と思ったことも感想に書くよう指示する。	・物語と自分を結びつけて感想をもっている。〈エ〉
	3 (3) 物語を通読して山場はどこか話し合い、学習計画を立てる。	・見通しをもって学習を進めることができるように、物語を読んで疑問に思ったことを出し合い、疑問を解決するためにどのような流れで学習を進めるかを決める活動を設定する。	・書かれていることをもとに、登場人物の行動に関わる問いを考えている。〈C-6〉
	学習問題 なぜ、すみれちゃんはけしかけてけすのをやめたのか。		
	4 (4) なぜ、すみれちゃんはこんな歌を歌っているのか考える。 ・私と同じで、2年生になって張り切っているのかな。	・自分と比べながら読むことができるように、すみれちゃんに短い手紙を書く活動を設定する。	・自分と比べながら読み、叙述をもとにすみれちゃんの気持ちを考えている。〈C-6〉
	5 (5) なぜ、すみれちゃんは宿題をやめてしまったのか考える。 ・「そうだ。」って、コスモスに水をやることを思い付いているよ。	・会話文だけでなく、行動や情景描写の叙述にも着目してすみれちゃんの行動の理由を考えることができるように、会話文と会話文の間に何があったのかを話し合う活動を設定する。	・叙述をもとに、すみれちゃんの気持ちと行動の変化を読んでいる。〈C-6〉
	6 (6) かりんちゃんの行動の理由について考える。 ・「どうして『おべんきょ』って言ったんだろう。」 ・すみれちゃんの真似をしているんじゃないかな。	・山場でのすみれちゃんの気持ちの変化を捉えることができるように、かりんちゃんの行動とその理由を考え、話し合う場を設定する。	・叙述をもとに、かりんちゃんの行動の理由を考えている。〈C-6〉
	7 本時 (7) なぜ、すみれちゃんは消しかけて消すのをやめたのか考える。	・物語全体から根拠となる叙述を複数見付け、それをつなげて考えることができるように、「なぜかわいく見えたのか」と問い返す。	・叙述をもとに、すみれちゃんの行動の理由を考えている。〈C-6〉
	8 (8) すみれちゃんの気持ちと行動の変容をまとめる。	・物語を通してのすみれちゃんの変容を捉えることができるように、物語を一文でまとめる活動を設定する。	・すみれちゃんの気持ちと行動の変化を関係付けて読んでいる。〈C-39〉
9 (9) 単元の学びを振り返る。	・単元の学びで見いだした新たな読みの視点を自覚して次の学習につなげていくことができるように、既習の物語を読み、行動の理由が分かる叙述を見付ける活動を設定する。	・行動の理由が分かる言葉を見付けて読んでいる。〈C-6〉	

◎本単元で育む主な資質・能力

文章中の言葉を根拠にしながら、人物の行動の様子やその意味を考えたり、気持ちを想像したりする。(C-6)

お話をしようかいしよう～スイミー～

・登場人物の行動の意味を考える。

5 本時の実際（7／9）

(1) ねらい かりんちゃんの会話や行動を表す叙述に着目し、すみれちゃんがかりんちゃんの絵を消すのをやめた理由を話し合うことを通して、すみれちゃんの行動が変化した理由を読み取ることができる。 〈C-6〉

(2) 展開

○省察を通して、自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>
3分	<p>① 学習問題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習による自己の読みの変容を感じることができるように前時の最後に学習問題に対する考えを書く場を設定しておく。</li> <li>・すみれちゃんの行動を捉え、本時のめあてをつかむことができるように、動作化を取り入れる。</li> </ul>
<p>学習問題 なぜ、すみれちゃんはけしかけてけすのをやめたのか。</p>		
30分	<p>② すみれちゃんが消しかけてやめた理由を考える。 (予想される子どもの反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぐちゃぐちゃの絵がかわいく見えてきた」って書いてある。</li> <li>・かりんちゃんは、絵のことを「お花」って言ってたよ。</li> <li>・かりんちゃんが描いた絵は、すみれちゃんが育てていた「コスモス」だ。</li> <li>・かりんちゃんが「おべんきょ。」って言ったのは、すみれちゃんの真似だと思う。</li> <li>・すみれちゃんはかりんちゃんの気持ちが分かって、その気持ちを大切にあげたのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の叙述を根拠に考えを深めていくことができるように、「ぐちゃぐちゃの絵がかわいく見えた」という叙述を根拠として、「かわいく見えたから消さなかった。」と考えた直接的な読み取りを最初に取り上げる。</li> <li>○物語全体から根拠となる叙述を複数見付け、それをつなげて考えることができるように、「なぜかわいく見えたのか。」と問い返す。「ぐちゃぐちゃの絵」と「かわいく見えた」の間をつなぐ叙述に着目し、つなげて考えるという意識をもつことができるように、キーワードと矢印を使って板書を可視化する。</li> <li>・すみれちゃんの行動が変化した理由をかりんちゃんの言動と結び付けて考えることができるように、かりんちゃんが絵を描いた理由を根拠にした考えを取り上げ、「お花」「おべんきょ」という言葉から分かることは何か話し合う場を設定する。</li> </ul>
7分	<p>③ 話し合いを通して深まった考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すみれちゃんは、かりんちゃんの気持ちを分かってあげたから消すのをやめた。</li> </ul>	<p>○学習問題について、再構築された自分の考えを焦点化してまとめることができるように、「すみれちゃんは <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 50px; height: 15px;"></span> 消すのをやめた。」という文型を提示する。</p>
<p>すみれちゃんが絵を消さなかった理由をかりんちゃんの会話や行動を表す叙述とつなげて考え、まとめている。 〈C-6〉(発言・ノート)</p>		
5分	<p>④ 今日の学習で役に立った「読みのわざ」をまとめ、学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手掛かりになる言葉をつなげて読むと分からなかったことが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学びをこれからの学習につなげていくことができるように、見付けた「読みのわざ」を物語文ノートにまとめる時間を設ける。</li> </ul>